

IHI AEROSPACE Co., Ltd.

Corporate Profile

各種アクセス



HP



YouTube



LinkedIn

△ 安全に関するご注意

- 正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に必ず取扱説明書をよくお読みください。
- このカタログの記載内容は2025年4月現在のものです。
- カタログに記載の仕様、寸法および外観は、改良のため予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 商品の色調は印刷の都合により、実際の色と異なって見える場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 所在地は変更になる場合がありますのでご了承ください。
- IHIおよびIHIシンボルマークは、IHIの登録商標です。



GREEN PLANET
P-A00000



TOYO IHI
VOC

このカタログは石灰石から生まれた新素材LIMEXでつくられています

株式会社IHIエアロスペース

〒 370-2398 群馬県富岡市藤木 900 番地
TEL (0274) 62-4123 FAX (0274) 62-7711
URL : <https://www.ihiaero.com/>



2504-1000-JP

IHI Realize your dreams

MISSION

新しい技術を 宇宙と、空と、美しい地球へ

VISION

ともに、うみだそう
新たな、素材を
新たな、商品を
そして、新たな、事業を

IAWAY

あの星へ。あの大空へ。

古代より人は天を見上げては憧れを抱き続けてきました。

安全で平和な、そして持続可能な社会へ。

無数の人々がそう願ってきました。

そのような想いを、願いを、現実へ、宇宙・防衛・航空分野で挑み続けてきたのが、

IHIエアロスペースです。

私たちは、宇宙と空を駆け巡りたい、美しい地球を守りたい、そういう集団です。

想いを、願いを、現実に変えていくために、これからも、

技術の最先端を歩むチームであり続けたいのです。

技術に完成はありません。進歩は一朝一夕には訪れません。

今のこの一歩、それがたとえどんなに小さな歩みであろうと、

その先に、新たな可能性、新たな未来が、拓かれていることを知っています。

誠実に、技術の本質を見据え、みんなで、粘り強く、今このときもその一歩を創りあげていきます。

代表よりメッセージ



“

持続可能な社会の実現を目指して

”

当社は1954年のペンシルロケット開発から始まり、我国随一のロケットシステム専門メーカーとして固体ロケット技術と宇宙環境利用技術、さらにはそれらに必須となる複合材技術を高め、事業を拡大・発展させて参りました。現在はIHIグループの一員として、航空・宇宙・防衛事業の一翼を担っております。

当社の事業を取り巻く環境は、時々刻々と変化しています。宇宙分野においては、国主導の宇宙開発から民間主導による宇宙利用の時代へと大きく転換し、安全保障や地球環境の課題解決といった面で必須のものになりました。防衛分野においては、世界的な緊張の高まりや我が国周辺の安全保障環境の急激な変化を受け、防衛力の抜本的強化が求められるようになりました。航空分野においては、旅客需要は将来に渡って拡大傾向にある一方で、機体の軽量化による省エネ推進、環境負荷の低減にとどまらず、世界的なカーボンニュートラルの流れに沿って、燃料の脱炭素化、グリーンエネルギー化が求められています。

当社は、これまで培ってきた高度な技術とものづくり力を活かして、このような社会の要求に応えつつ、何にも代えがたい美しい地球を守り、持続可能な社会の実現へ向けて取り組んでまいります。

代表取締役社長 並木 文春

IHIグループの事業領域



IHIエアロスペースの事業構成

高度な技術力を土台として3つの事業を展開。
これらを軸とした事業展開により強靱な経営基盤を構築。

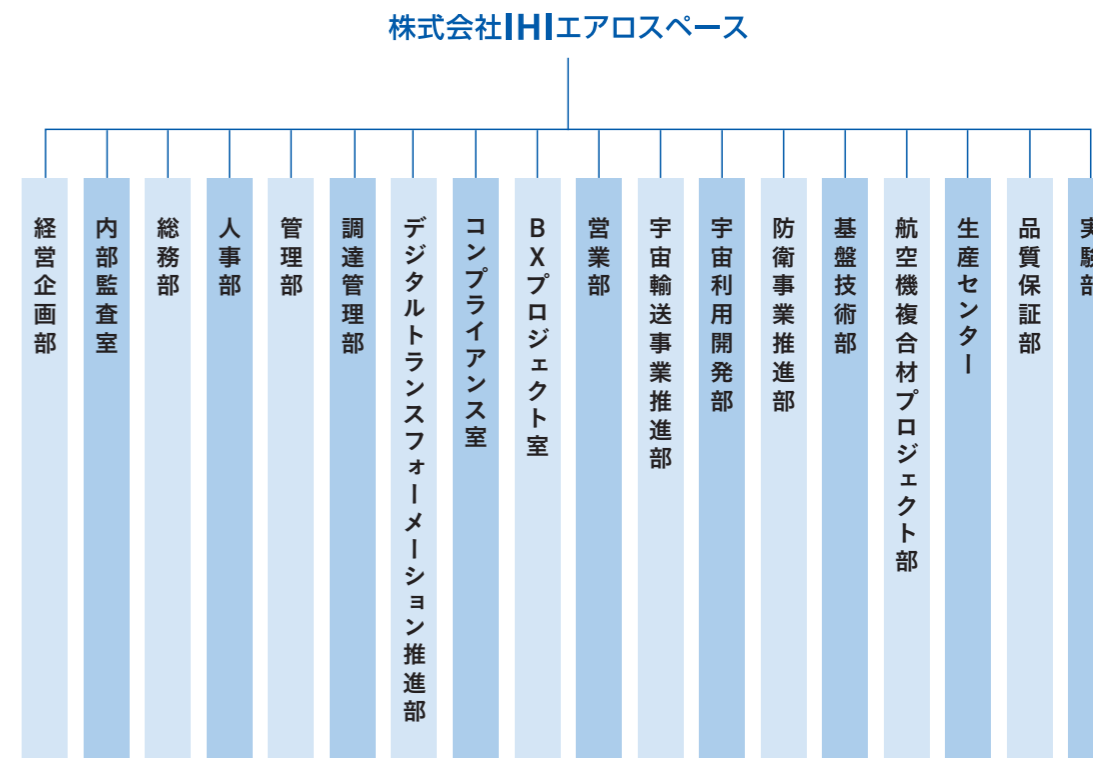


会社概要

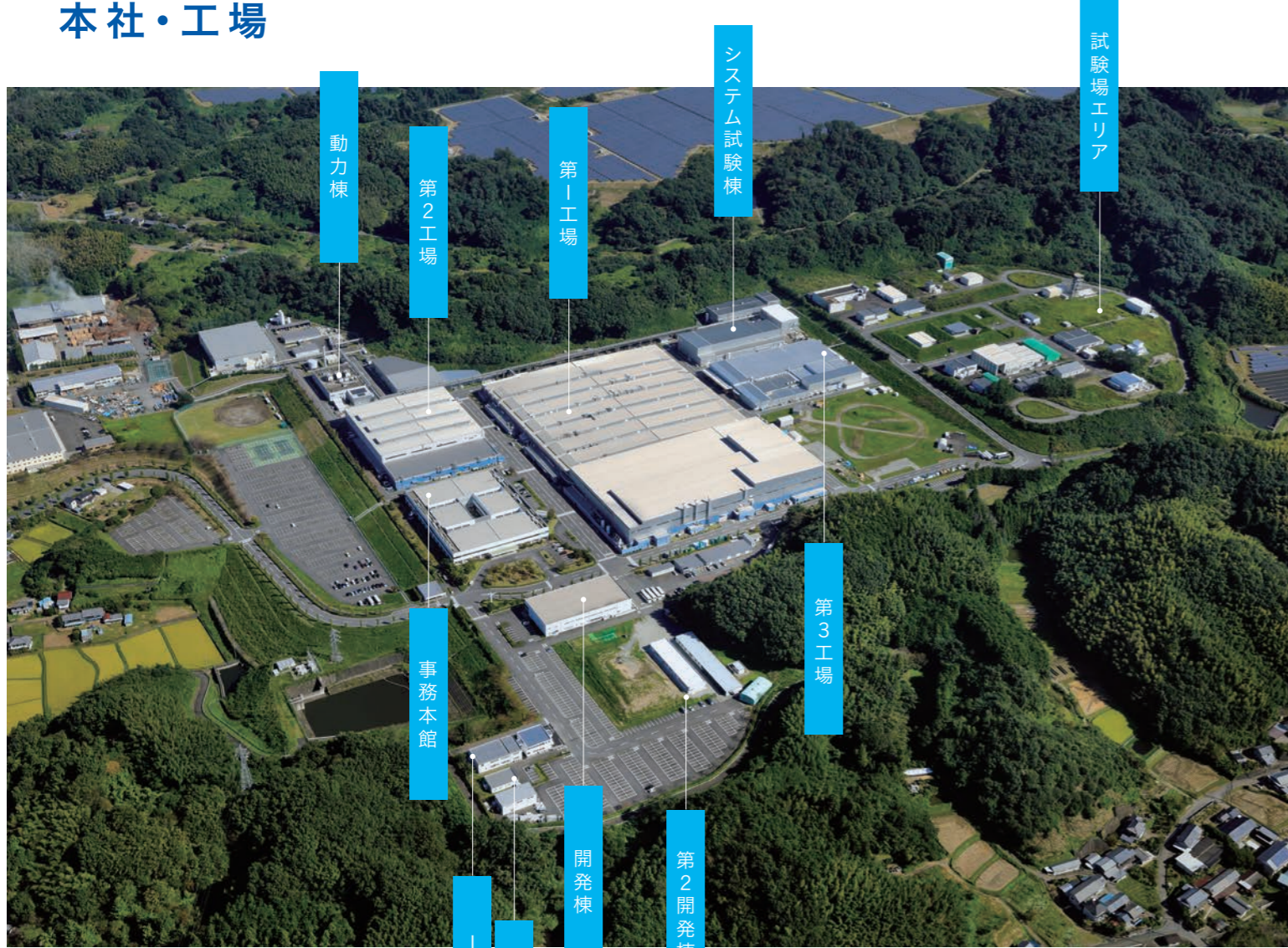
社名	株式会社IHIエアロスペース
英文名称	IHI AEROSPACE CO., LTD.
本社所在地	〒370-2398 群馬県富岡市藤木900番地
TEL	0274-62-4123
FAX	0274-62-7711
HP	https://www.ihico.jp/ia/
資本金	50億円(株式会社IHI・100%出資)
事業内容	宇宙機器、防衛機器等の設計、製造、販売および航空機部品の製造、販売など
従業員数	約1,000名
関連会社	株式会社IHIエアロスペース・エンジニアリング

組織図

(2025年4月～)



本社・工場



敷地面積：約49万㎡

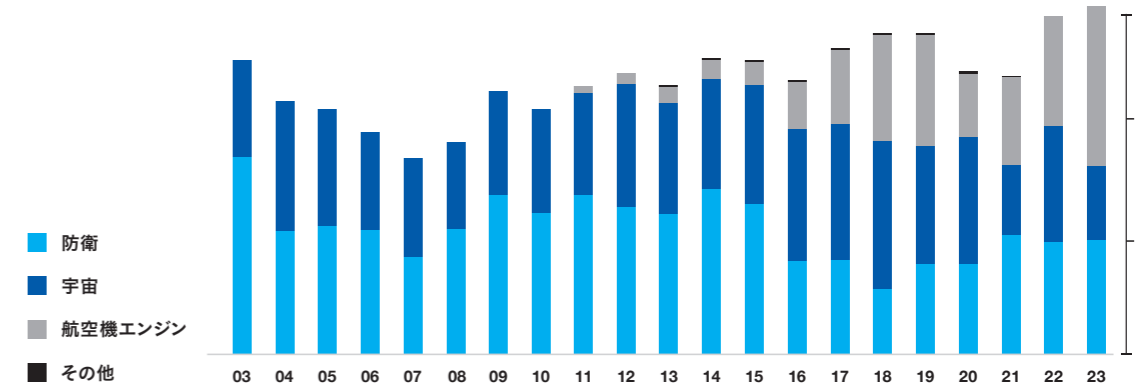
工場沿革

- 1996** 建設着工
- 1997** 第2工場・事務本館・動力棟・燃焼試験棟ほか 竣工
- 1998** 富岡事業所 竣工
- 2000** 株式会社アイ・エイチ・アイ・エアロスペース 設立
- 2003** 石川島播磨重工業株式会社宇宙開発事業部を一部統合
- 2007** システム試験棟 竣工、川越事業所の富岡移転完了
- 2008** 株式会社IHIエアロスペースに社名変更
- 2014** 第3工場 竣工
- 2024** 本社所在地変更



SALES TRENDS

売上高の推移

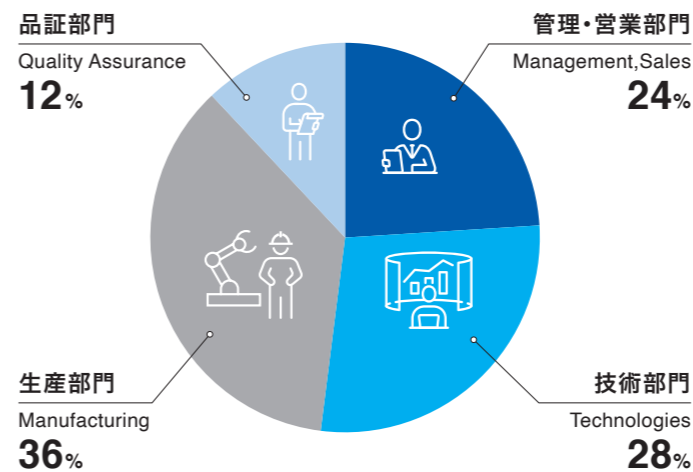


PERSONNEL BREAKDOWN

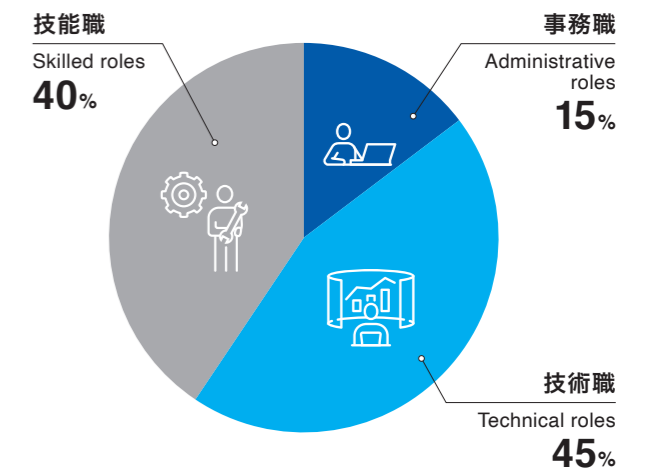
人員構成

2023年4月1日現在

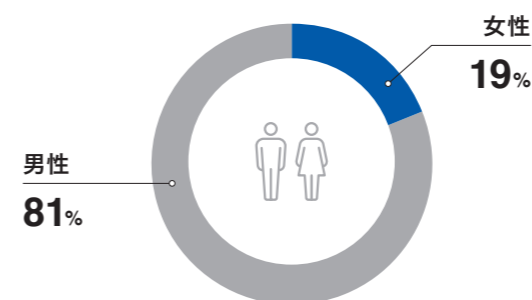
部門別 By department



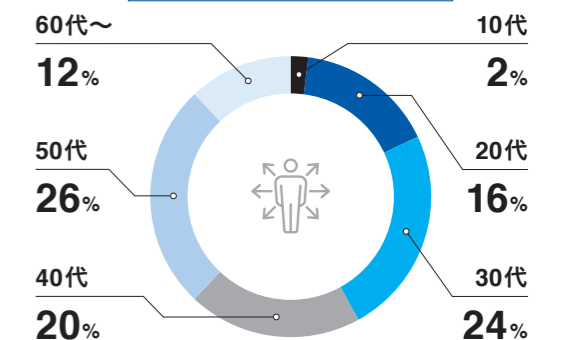
職種別 By occupation



男女比率 Gender ratio



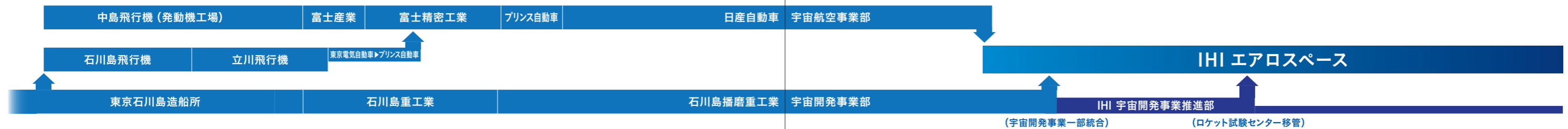
年齢構成 Age structure



事業の歴史



会社変遷



沿革

株式会社IHIエアロスペース(以下、IA)は、日産自動車株式会社宇宙航空事業部の営業譲渡を受けて、2000年に発足しました。1953年、戦前の中島飛行機の流れを汲む富士精密工業株式会社がロケット飛行体の研究に着手して以来、科学観測ロケットや実用衛星打上ロケットの開発に70年の長きにわたって携わる、我が国を代表するロケットの総合メーカーです。2003年には、ターボポンプ関連を除く石川島播磨重工業株式会社の宇宙関連事業の多くをIAに移管・統合、今やIHIグループ

の中核として宇宙開発事業の中核拠点として活動しています。また防衛分野においても、戦後我が国の防衛産業草創期から装備品開発に取り組み、ロケット弾システムや誘導弾推進装置の専門メーカーとして日本の防衛に貢献しています。さらに、ロケット開発で長年培った技術をジェットエンジン部品の製造に活用、航空機関連部品製造を3つ目の事業の柱として活動しています。

宇宙輸送事業

宇宙への自在なアクセスを提供

すべての宇宙活動は、宇宙へのアクセスを可能とする「宇宙輸送システム」が必須であり、活動を支える基盤となっています。当社は、日本が独自に開発した固体燃料ロケット技術を主軸として、大中小の衛星の輸送手段を提供しています。

イプシロンロケット

イプシロンは我が国基幹ロケットの一角をなす固体ロケットです。当社は、ロケットシステムの開発と機体製造を担い、開発中のイプシロンSを用いた打上げ輸送サービス事業を展開する事業者を選定されています。今後益々需要拡大が予想される小型・超小型衛星の打上げ市場に本格参入を目指します。



特設サイト



イプシロンロケット発射管制システム

群馬県：本社・工場



REMOTE CONTROL



打上げ場所

鹿児島県：JAXA内之浦宇宙空間観測所



H-IIAロケット

H-IIAは日本の基幹ロケットとして、2001年に初号機を打上げ、2023年までに47機を打上げたベストセラーです。この間、各種の人工衛星打上げを通じて社会の発展に貢献してきました。当社は、固体ロケットブースタ(SRB-A)、第2段ガスジェット装置、火工品等の開発、製造を担当しています。



©三菱重工/JAXA

H3ロケット

H3ロケットはH-IIAロケットの後継機となる次期基幹ロケットです。打上げ費用を大幅に低減するとともに、使いやすさを向上させ、今後の日本の宇宙輸送を担うロケットとして、国際衛星打上げ市場への本格参入を目指しています。当社は、H-IIAと同様に固体ロケットブースタ(SRB-3)、第2段ガスジェット装置、火工品等の開発、製造を担当しています。



©JAXA

観測ロケット

観測ロケットにはS-310、S-520、SS-520があり、それぞれ最大高度は190km、350km、1000kmまで到達できます。これらの観測ロケットはJAXA宇宙科学研究所が実施する超高層大気観測や高高度における各種実験、北極圏における磁気圏観測などに用いられています。SS-520-5号機は世界最小の衛星打上げロケットとしてギネス世界記録に認定されています。



©JAXA

©JAXA

民間打上げサービス事業への参画

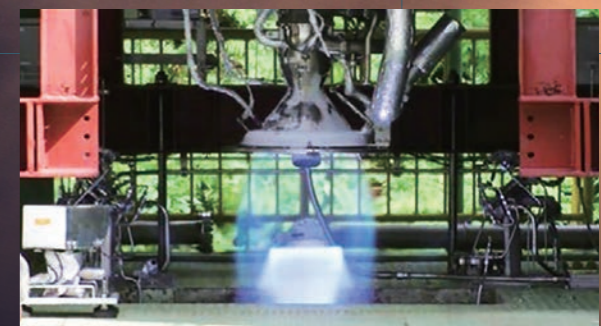
当社が資本参加するスペースワン株式会社は、「世界最短」「世界最高頻度」での打上げ輸送サービスの提供を目指して、カイロスロケットの開発と打上げの事業化を進めています。当社は、カイロスロケットの推進系コンポーネントを提供しています。



©スペースワン

将来輸送系

当社は世界に先駆けロケット用メタン推進系の研究・開発を進めており、100kN級と30kN級のエンジンをIHIで開発しています。将来輸送系として重要な技術であり、小型ロケットの上段ステージへの適用を目指しています。



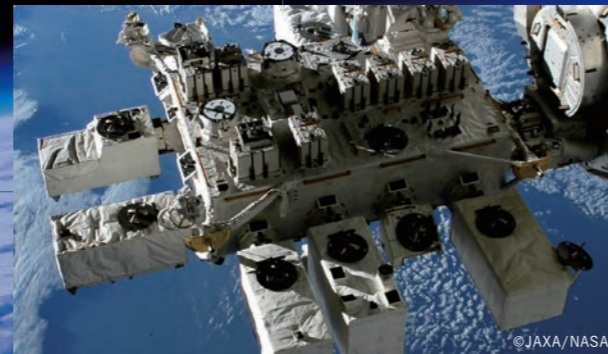
宇宙インフラ事業

宇宙を活動の場に

宇宙環境を利用した実験や観測において、お客さまのご要望をとりまとめてミッションを可能にするためのシステムインテグレーション技術と、宇宙の特殊環境下で動作を可能とする機構部品の技術などを活かし、多くの宇宙機システムや関連装置を提供しています。また、人工衛星の軌道変更や姿勢制御用の推進システムおよびその関連装置についても豊富な経験を有し、多くの衛星や宇宙機に採用されています。

国際宇宙ステーション(ISS)

ISSは国際協力で作られた有人宇宙施設で、生命科学・材料・医薬品開発につながる実験、科学観測、宇宙観測、通信実験などを行っています。当社は、日本が開発した「きぼう」日本実験棟において、船外実験プラットフォームの開発、製造を担当したほか、船内実験室の熱制御系・実験支援系、およびそれらに搭載される実験ラックや実験装置を開発、提供しています。



「きぼう」船外実験プラットフォーム

小型曝露実験プラットフォーム(i-SEEP)

i-SEEPは宇宙機の与圧環境で打上げた実験装置を「きぼう」の船外実験プラットフォームで実験するためのアダプタとなる装置です。これにより多くのユーザが比較的容易に実験装置を用意することができるようになりました。



「きぼう」に設置されたi-SEEP

小型衛星放出機構(J-SSOD)

J-SSODは、ロボットアームを用いて超小型衛星を「きぼう」から軌道投入するための装置です。2012年に初めて放出を行い、2024年4月末までに計79機の衛星放出に成功しています。



衛星放出の様子

静電浮遊炉(ELF)

ELFは、静電気力で帯電させた実験試料を浮かせ、非接触で加熱・熔融・冷却・凝固を行う実験装置です。容器不要なので、高融点試料や反応性の高い試料の加熱試験が可能です。



ELFのサンプル交換を行う様子

ドッキング機構

宇宙空間で2つの宇宙機を自動で結合させることができる機構です。HTV-X2号機に搭載し、日本として初のISSでの実証を目指し開発を行っています。また、将来の民間商業ステーション等をターゲットに海外へのビジネス展開を行っています。



ISSに向かうHTV-Xの想像図

衛星推進系

当社の衛星推進系は、ロケットや衛星の姿勢制御装置、静止衛星を軌道に投入するためのアポジエンジン、月や火星軌道に投入するための推進システム、ISSに物資を運ぶためのHTV-X用推進モジュールなど、数多くの衛星や宇宙機に採用されています。これらのシステムに使用する一液スラスタ、二液スラスタ、タンク、バルブ、電気推進(ホールスラスタ)などの開発、製造を行っており、それらは海外への輸出も行っています。



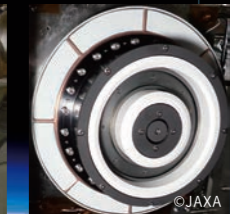
一液スラスタ



二液スラスタ



推進タンク



ホールスラスタ

MMX探査機



©JAXA

統合宇宙防衛事業

宇宙空間の持続可能な利用に向けて

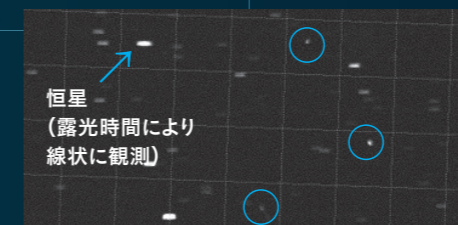
宇宙空間には、測位や通信、地球観測などの各種衛星が打上げられており、なくてはならない重要な社会インフラとなっています。一方、宇宙ゴミ(スペースデブリ)は増え続け、現在約2万個が存在するといわれています。当社は、宇宙空間の安定的利用のために、宇宙状況を監視する取り組み(SSA)を行っています。また、人工衛星から地上を観測したデータを利用し、安全保障や社会課題解決に貢献するための研究開発を行っています。

SSAの取り組み

当社は、西日本と東日本の2か所にSSAの観測所を有しています。観測範囲はインド洋から太平洋上空までの約120度で、静止軌道帯の宇宙物体の位置や軌道解析を行い、接近情報などの提供も行っています。今後SSA技術をさらに向上させ、宇宙の安全を見守るサービスの実現を目指しています。



相生観測所



撮影画像例：公開情報にない未知の物体を検出



南牧観測所



口径200mm 視野角2.6度 冷却CCDカメラ 静止軌道帯の経度120度幅を観測

防衛事業

安全保障の一翼を担う

平和で安全な、そして持続可能な社会を目指して、当社は防衛事業を通じて日本の安全保障に貢献しています。我が国を取り巻く周辺環境が益々厳しくなる中、ロケット弾システム、各種誘導弾用推進装置などの分野で安全保障の一翼を担ってまいります。

ロケット弾システム

当社は戦後我が国防衛産業草創期からロケット弾の開発、生産に取り組み、独自国産とライセンス国産の各種ロケット弾システムを防衛省に納入してまいりました。安全保障の根幹として益々重要性が認識される継戦能力の維持向上に、今後も貢献してまいります。

障害処理器材

当社はロケットを用いた障害処理に長年の経験と実績を有しています。対戦車地雷を迅速に処理する92式地雷原処理車(MBRS)をはじめ、人員用の70式地雷原爆破装置と携帯障害処理器材を開発・生産しています。また、新たなニーズに対応して水際障害処理装置を開発し、装備化へつなげました。



携帯障害処理器材



92式地雷原処理車 (MBRS)

各種ロケット弾薬

陸上自衛隊向けに、地対地、空対地、対戦車などの各種ロケット弾を製造・納入しています。また海上自衛隊向けに、チャフロケット弾、IRデコイ弾などの艦艇防御システムを開発・納入しており、さらに新たな技術を活用してRFデコイ弾の開発も行っています。



70mm空対地ロケット弾



RFデコイ弾

誘導弾用推進装置

当社は我が国随一の誘導弾用固体ロケットモータの製造メーカーです。陸・海・空各自衛隊が装備する地対地、地対空、空対地(艦)、空対空などの各種誘導弾(ミサイル)用として、多くのロケットモータを供給しています。我が国防衛のため誘導弾のニーズが益々高まる中、これに積極的に対応してまいります。

11式短距離地対空誘導弾 /

基地防空用地対空誘導弾

81式短距離地対空誘導弾(通称“短SAM”)の後継となる地対空誘導弾システムです。当社は“短SAM”の時代から一貫して推進装置の開発・製造を担当しています。



弾道ミサイル防衛用

能力向上型迎撃ミサイル:

SM-3ブロックIIA

SM-3ブロックIIAは日米共同開発の弾道弾迎撃ミサイルで、海上のイージス艦から発射され、敵のミサイルをミッドコースで迎撃する、3段式の誘導弾です。当社は第2段・3段推進装置の開発・製造を担当しています。



ペトリオットPAC-3MSE

ペトリオットPAC-3は、飛来する中・短距離弾道ミサイルを大気圏内の最終段階において迎撃するミサイルです。MSEはその迎撃能力をさらに向上させたもので、PAC-3に引き続き当社がロケットモータのライセンス生産を担当しています。



※写真は従来型PAC-3

航空機複合材事業

ロケット技術をもとにCO₂削減に貢献

当社は、IHIで培ってきた航空機エンジン技術と、ロケットで長年取り組んできた軽量化のための複合材技術を組み合わせ、航空機の燃費向上や脱炭素化に貢献できる航空機エンジン部品の複合材化に取り組んでいます。Airbus A320neoやAirbus A220シリーズに搭載されるPW1100G-JM、PW1500Gシリーズエンジン向けに、ファンケース、ファンブレード、ガイドベーン等部品の量産供給体制を構築しています。

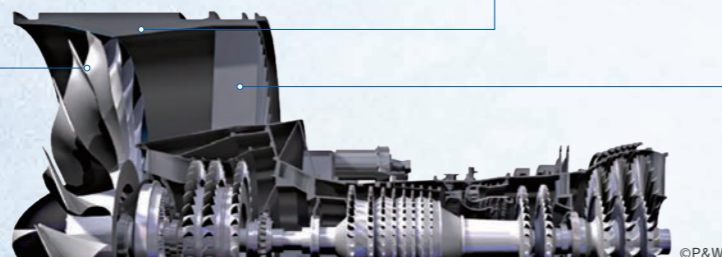


AIRCRAFT ENGINE

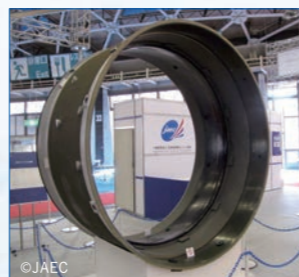
ジェットエンジン部品製造

現在当社は、エアバス社のA320neoに搭載されるPW1100G-JMエンジンならびに同A220に搭載されるPW1500Gエンジン用の複合材製ファンケースの唯一の製造メーカーとして量産体制を構築し、旅客機の軽量化と燃費向上に貢献しています。また、複合材部品以外にも、当社が得意とする接着/塗装技術を軸とし、同エンジンに搭載されるファンブレードの製造も行っています。

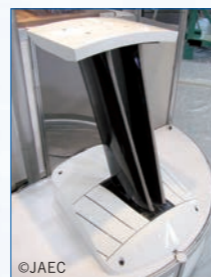
ファンブレード



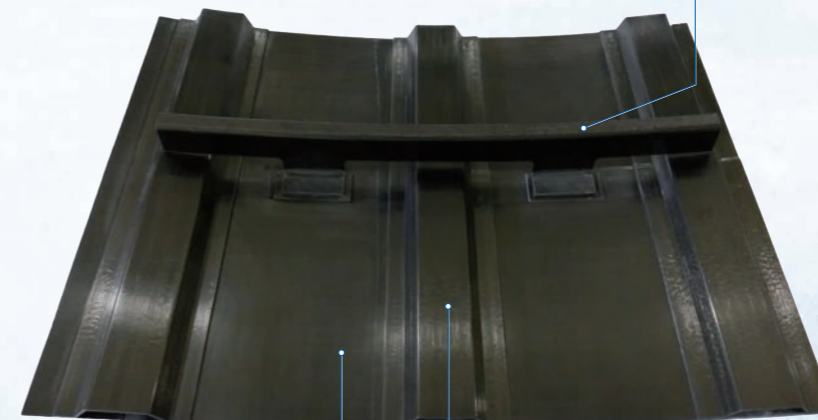
ファンケース



ガイドベーン



スキン・フレーム接着構造



スキン・ストリンガー 一体構造

IAC LAB

IACラボ紹介

当社では、お客さまと一緒に新事業創出活動が可能な場として、IACラボを開設しました。IACラボでは、熱可塑性複合材のプリプレグ製造、成型、接着工程の一気通貫型の試作が可能であり、実際に設備を使用したディスカッションを通してお客さまの課題解決や販路創出を目指しています。



RECYCLING

リサイクルへの取組み

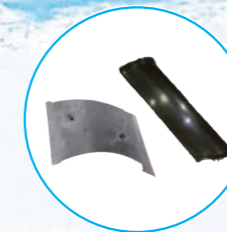
循環型経済(サーキュラーエコノミー)実現への取り組みとして、当社では複合材部品のリサイクルに関する研究開発も進めています。熱可塑性複合材の裁断時に出る端材のリサイクルとして、別の製法によって強度の求められない航空機の構造体以外の部位等への採用を目指しています。



裁断工程



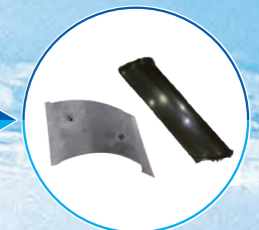
工程内端材



エンドライフ製品



破碎加工



リサイクル品

DECARBONIZATION

脱炭素航空機実現に向けた研究開発

航空機脱炭素化に向けて検討されている次世代航空機である電動航空機や水素航空機のような新たな航空機の実現に向け、当社ではさらなる航空機の軽量化に貢献すべく航空機における複合材製部品の適用拡大に向けて研究開発を進めています。

基盤技術

事業を支え、新たな価値を創造

航空・宇宙・防衛関連技術の研究開発で各事業の基盤を支えるとともに、それぞれの枠を飛び越え、未来に向けた新たな価値創造にも取り組んでいます。



固体ロケット地上燃焼試験



核融合ロケットイメージ図

推進系技術

高性能と高信頼性の両立を目指し、固体推進・液体推進・電気推進といった幅広いロケット推進系の研究開発に継続的に取り組んでいます。また将来に向けた新たな推進系技術を獲得すべく、空気吸込式エンジン、核融合ロケットなどの新技術開発にも積極的に取り組んでいます。

耐熱材料技術

ロケットの噴射口や再突入体のヒートシールドに用いられる耐熱材料は、当社固有の技術分野のひとつです。固体ロケットのノズルスロットに用いられるC/C複合材料(Carbon/Carbon Composite)は炭素繊維を強化材とし炭素をマトリクス材としたもので、当社独自の設計・製法により作られています。また、「はやぶさ2」などのカプセルに用いられるアブレーション型ヒートシールドも当社が開発・製造しています。

マイクロ波電力伝送技術

宇宙太陽光発電システム(SSPS: Space Solar Power System)の実現に向け、キー技術であるマイクロ波電力伝送技術の開発に取り組んでいます。SSPSでは衛星軌道上から電力を送電するため、高出力化・高効率化・軽量化といった技術課題があり、それらに対して着実に研究を進めています。

シミュレーション技術

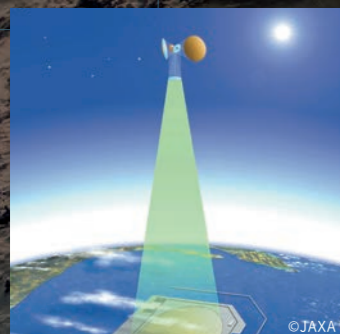
ロケットや宇宙機の開発期間短縮と信頼性向上に向け、シミュレーション技術の研究開発に取り組んでいます。ロケットの燃焼状態や飛行状態、宇宙空間における機器の動作といった極限環境における事象をシミュレーション上で再現することで、試験前の成立性確認や実際に計測できない現象の理解を深め、さらなる技術向上を図っています。



C/C複合材料



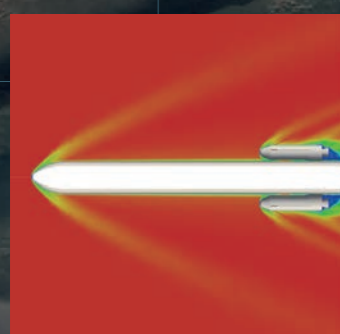
はやぶさ2再突入カプセル



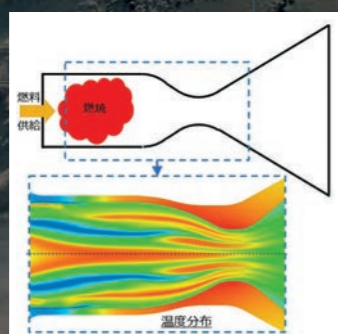
SSPS概念図



受電部



ロケットの流体解析例



液体スラスターの燃焼解析例

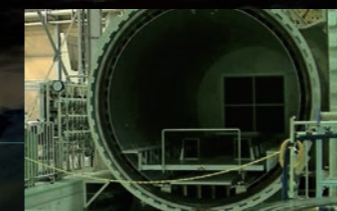
生産技術

一貫した生産体制を構築するトータルエンジニアリング

多種多様な材料を製品に適用し、また大型部品として製造できることを強みとしています。さらに多様化したニーズに応えられるよう、量産自動化や環境に配慮した生産技術開発にも取り組んでいます。



自動積層装置



大型オートクレーブ



大型ターニング装置



リン酸アノダイズ自動処理装置

複合材料製造技術

独自材料の開発が可能な複合材料技術を有しており、製品要求に応じた材料設計や製品の製造に適した材料形態での製造が可能です。

- 材料形態
ロービングプリプレグ、クロスプリプレグ

複合材料成形技術

機能・性能に合わせて多様な成形方法によりFRPやFRTP部品を製造する技術を有しています。また、ロケット・航空機に代表される大型高品質部品の製造も可能です。

- 成形技術
FW、ハンドレイアップ、チョップモールド、射出成形、テープワインディング、RTM、C/C
- 成形設備
オートクレーブ、ハイドロクレーブ、射出成形機、FW装置、自動積層装置、プレス

機械加工

大型薄肉部品でも変形や振動を防止した高精度加工、CFRP・C/C・ハニカム構造等の非金属や金属との接合品の損傷を防止した高品質な加工が可能です。

- 主要加工機
大型マシニング、複合材ターニングセンター、大型旋盤装置

表面処理技術

塗装を含めた多様な表面処理技術を非鉄金属に適用することで耐腐食性、接着性や耐侵食性を向上させる技術を有しています。さらに、完全自動のシステムや製造記録によるトレーサビリティなどで効率化に貢献しています。

- 表面処理
アロジコーティング、リン酸アノダイズ
- 塗装
プライマースプレー塗装、ウレタン塗装

接着技術

異種材料の接着技術を保有しており、表面処理から接着まで一貫した製造が可能です。

- 適用材料
金属、非金属、FRP

未来へ向けた技術研究

当社はカーボンニュートラルを目指した生産技術開発にも取り組んでいます。塗料の消費量削減、空調設備の省力化および副資材削減を図ることで環境に配慮したモノづくりを実現させるため、ダイレクト塗装技術の確立を目指し研究中です。量産設備の構築にインテグレートとして取り組んでいます。



ダイレクト塗装装置



塗布パターン

ダイレクト塗装装置を先端に取付け、ロボットにて複雑形状を自動で塗布する装置です。塗着効率が高く、副資材削減が実現可能です。

品質保証技術

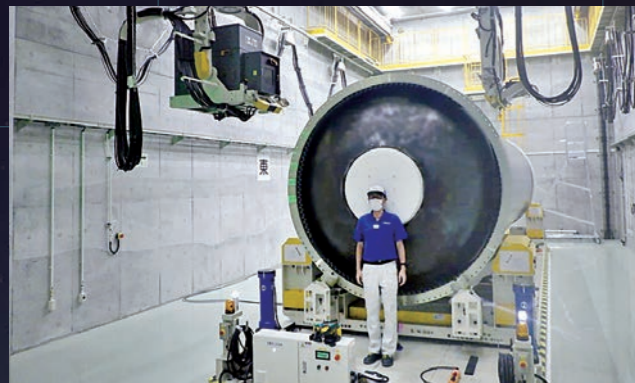
最新技術を駆使した製品の品質評価

航空・宇宙・防衛製品の信頼性を確保するため、最新の非破壊検査手法やセンシング技術を取り入れた計測技術を開発し、製品の品質を評価しています。また、人工知能 (AI) などのデジタル技術を駆使した作業の安定化や効率化にも取り組んでいます。

非破壊技術

X線や超音波など、様々な手法を駆使した検査技術開発に取り組んでいます。

- 大型透過検査装置：高エネルギー線源とデジタル検出器を用いて、大型ロケットのモーターケースなどを全自動で探傷可能な装置を開発しました。
- 非接触超音波探傷検査装置：探傷プローブを製品に接触させることなく、より効率的で安定した検査を可能にしています。



大型透過検査装置



非接触超音波探傷検査装置

計測技術

小型から大型製品まで、様々なニーズに合わせた計測技術の開発を行っています。

- テラヘルツ波膜厚計測システム：特殊な性質をもつ周波数帯の電磁波 (テラヘルツ波) を用いて、非接触で自動計測ができるシステムを開発しました。
- レーザートラッカー計測装置：製品サイズや構造に合わせ、最新の3Dスキャナ技術を用いて高精度で効率的な計測システムの開発に取り組んでいます。



テラヘルツ波膜厚計測システム



レーザートラッカー計測装置

品質マネジメントシステム

航空・宇宙・防衛製品に求められる高い品質水準を達成するため、公的規格に基づく品質マネジメントシステムを構築し、すべての生産活動に適用して日々の技術力向上とさらなるレベルアップを図っています。また、特定の製品群においては個別のセクター規格にも対応しています。

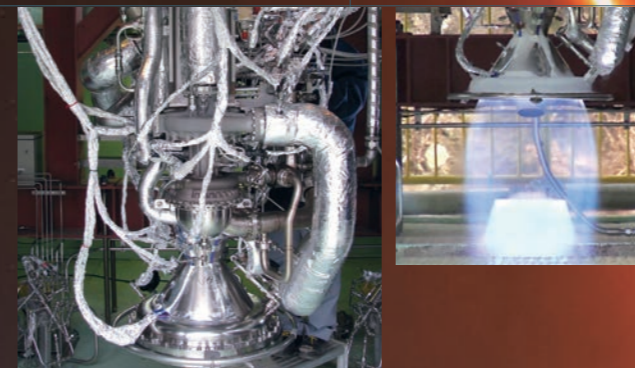
実験技術

製品開発を支えるプロフェッショナル集団

製品開発過程における設計検証、ならびに製造過程における製品保証のために、固有の実験技術を基盤として各種試験を実施しています。



SRB-3地上燃焼試験 (QM2)



100kN級再生冷却メタンエンジン燃焼試験



イプシロンロケットMCO試験



イプシロンロケット打上げ

固体推進系燃焼試験技術

固体ロケットの構成要素であるモーターケース、推進薬、断熱材、ノズル等の試験から、それらを組み合わせた実機大ロケットモータの地上燃焼試験まで、幅広い試験技術を有しています。燃焼試験は推力200kNレベルまでは社内、それ以上のものは社外の燃焼試験場で実施しています。

液体推進系燃焼試験技術

推力100kNレベルまでの液化メタンと液体酸素を用いるロケットエンジンの燃焼試験が可能です。また、ヒドラジンを燃料とする衛星用スラスタの真空中燃焼試験、ターボポンプの駆動試験なども行います。高圧ガス設備や計測・制御・防消火等の付帯設備を自在に使いこなして、超高圧、極低温の液体水素なども安全に扱う試験技術を有しています。

システム試験技術

複数の機器を組み合わせたシステムとしての機能確認試験を行います。機器間のインターフェース確認から始め、最終的にはすべての機器を動作させてひとつの製品として機能することを確認します。宇宙ロケットの場合、確認項目は数千にも及びます。

打上げオペレーション

射場でのロケット打上げに係わるオペレーションも重要な技術のひとつです。シーケンスの策定から実行まで、綿密に計画されたすべての作業を予定どおり遂行することで確実な打上げを行います。

サステナビリティ

私たちIHIグループは、「技術をもって社会の発展に貢献する」、「人材こそが最大かつ唯一の財産である」との経営理念のもとに、地球的課題を意識し、お客さまや取引先、株主のみならずはもちろん、ともに働く人びと、そして地域社会や国際社会の期待に応えるために私たちがなすべきことを自ら実践し、それぞれからの信頼を得ることによって将来にわたって企業としての存在価値を高めることに努めます。
(IHIグループ基本行動指針より)

SDGsへの取り組み

当社は、先進技術により、航空輸送、防衛システムおよび宇宙利用の未来を切り拓き、豊かで安全な社会の実現に貢献してまいります。



社会貢献活動

当社は、社会の期待に応えることを企業の社会的責任ととらえ、CSR活動にも積極的に取り組んでいます。地域のみならずの一体感醸成を目的に本社・工場で毎年開催している「富岡ロケット祭り」は、たいへん好評をいただいています。また、地元のお祭りへの参加や、社員による学校での講演実施など、各種活動を行っています。



事業所公開「富岡ロケット祭り」

「富岡どんとまつり」への参加



車いすバスケットボールイベント

地元中学校での社員講演

マネジメントシステムの構築

当社は、以下の国際的マネジメントシステムの認証を取得し、グローバルスタンダードな基準に基づく企業活動を行っています。

- 品質マネジメントシステム: JIS Q 9100 & JIS Q 9001 (ISO 9001)
- 環境マネジメントシステム: JIS Q 14001 (ISO 14001)
- 情報セキュリティマネジメントシステム: JIS Q 27001 (ISO/IEC27001)
- 労働安全衛生マネジメントシステム: ISO 45001

外部評価など

当社の各種取り組みに対して、次の認定などをいただいています。



健康経営優良法人

● 健康経営優良法人
経済産業省が日本健康会議と共同で開始したもので、社員の健康管理を経営的な視点で考え、健康の保持・増進につながる取組みを戦略的に実践する法人を顕彰する制度です。



えるぼし(3段階目)

● えるぼし(3段階目)
「女性活躍推進法」に基づき、一定基準を満たし、女性の活躍促進に関する状況などが優良な企業を認定する制度です。



くるみん

● くるみん
「次世代育成支援対策推進法」に基づき、行動計画を策定した企業のうち、目標を達成し、一定の要件を満たした企業を「子育てサポート企業」として認定する制度です。



パートナーシップ構築宣言

● パートナーシップ構築宣言
事業者が、サプライチェーン全体の付加価値向上と、パートナー企業の皆様との共存共栄を目指して、代表者名でその取組みについて宣言を行うものです。

アクセス



武豊事務所

〒470-2379
愛知県知多郡武豊町字北小松谷1番地
TEL:050-5541-1627 FAX:0569-73-2359



本社

〒370-2398
群馬県富岡市藤木900番地
TEL:0274-62-4123 FAX:0274-62-7711



東京事業所

〒135-0061
東京都江東区豊洲三丁目1番1号豊洲IHIビル
TEL:03-6204-8000 FAX:03-6204-8810



相生試験場

〒678-0041
兵庫県相州市相生5292番地
TEL:050-5541-1631



横浜事務所

〒235-8501
神奈川県横浜市磯子区新中原町1
IHI横浜事業所
横浜エンジニアリングセンター2号館

種子島事務所

〒891-3703
鹿児島県熊毛郡南種子町荃永
宇宙航空研究開発機構種子島宇宙センター RM棟2F
株式会社IHIエアロスペース種子島事務所
TEL:0997-26-0467 FAX:0997-26-0823